



二本松・マンション資材から高線量 採石、19社に販売



高い放射線量が測定された二本松市のマンションの1階通路。子どもたちの遊び場になっていたという

福島県二本松市のマンションの室内で高いレベルの放射線量が計測された問題で、原因とされるコンクリート原材料の石を販売した「双葉砕石工業」（福島県富岡町）が昨年3月の福島第1原発事故以降、県内の建設会社など19社に計約5200トン販売していたことが16日分かった。道路や住宅の土台などに使われたとみられる。国、県、二本松市が追跡調査している。

双葉砕石工業によると、石は昨年2～3月、原発の北西約22キロの浪江町南津島にある採石場で採掘。3月14日から、南津島地区などが計画的避難区域に指定された4月22日まで販売した。

販売先は二本松、福島、本宮の3市と川俣町、飯舘村の建設会社17社とコンクリート製造会社2社。販売先に確認したところ、19社とも使用し在庫はないという。コンクリートに加工して販売したケースもあり、追跡調査が難航する可能性もある。

双葉砕石工業の猪狩満社長（50）は「採石場付近の線量が高いことを知っていたら、販売しなかった。知識がなかったとはいえ、結果として住民に迷惑を掛け申し訳ない」と話した。

二本松市の説明では、マンション1階の居住者の積算線量計の測定で、昨年9～11月の3カ月間に1.62ミリシーベルトになった。マンションの施工業者（二本松市）によると、コンクリートに双葉砕石工業の石が使われた基礎部分、1階のベランダ、通路で高い放射線量になった。

二本松市の調査では、同じ石を含むコンクリートを使用した同市内の農業施設の水路でも周辺より高い毎時1.6～1.9マイクロシーベルトだった。

マンションの施工業者の社長（63）は「石（の放射線量など）については建築資材として使用できるかどうかの基準もなく、不安だ。国に何とかしてほしい」と訴える。

二本松市のマンションには12世帯が入居し、うち10世帯が浪江町と南相馬市からの避難者。1階に住む男性は16日、「知らずに被ばくさせられていたと思うと腹が立つ。室内でも放射線量が高くなるなんて、考えもしなかった。すぐにでも退去したい」と話した。

浪江町から避難して2階に住む女性（40）によると、長女（15）と次女（10）が携帯する積算線量計の数値は昨年9～11月の3カ月間で0.22ミリシーベルトと0.37ミリシーベルトだった。

女性は「屋外は危ないと思い、近くの公園ではなくマンションの通路などで遊ばせていた。いつまで放射能に追われ続けるのか」と嘆いた。



◎ 経産省、年末に報告受理

経済産業省が二本松市のマンション室内で屋外より高い放射線量が測定されたとの報告を昨年末に受けたにもかかわらず、すぐに調査などの対応を取っていなかったことが16日、分かった。マンション1階部分だけ放射線量が高かったため、同省は全体で使用されているコンクリートが原因と考えず調査は今年10日ごろからの開始となった。

経産省によると、昨年12月29日、環境省と二本松市の調査でマンション1階部分から高い放射線量が測定されたことが内閣府を通じて伝えられた。しかし、報告では2、3階部分などは放射線量が高くなかったことから、同省はコンクリートが関係している可能性は低いと判断したという。

年明け6日ごろに再び内閣府経由で報告があり、1階の基礎部分では、計画的避難区域となった同県浪江町の砕石場の石がコンクリートに使われた可能性が指摘された。このため同省は10日ごろから、この砕石場の石かどうかの確認調査などに乗り出したという。

2012年01月17日火曜日

[@niftyでホームページ作成](#)

月額100円から始めるホームページ作成 大容量の1-10GB。最大1ヶ月無料

homepage.nifty.com

Ads by Google